# 新理事長に金栄作氏が就任

## 県民に愛される、身近な大衆娯楽を目指す

金新理事長

山口県遊技業協同組合（梁川康成理事長）は6月19日、山口市の山口グランドホテルにおいて、平成27年度通常総会を開催した。

総会成立報告（組合員総数79名中、出席者17名、委任状33名、計50名）の後、永年勤続職員と販売協力店舗に対する表彰式を実施。永年勤続職員43名（30年1名、20年5名、10年37名）、販売協力店舗20店舗の代表者数名に、梁川理事長より表彰状が手渡された。挨拶へと立った梁川理事長は、

「現在、業界ではのめり込み防止対策や置き引き防止対策などを重要課題としてあげ、マニュアルを策定するなど様々な取り組みを行っています。その一方で、行政の方々からは、くぎの問題をあまく考えているのではないかという指摘を受けています。この6月から推進機構による、くぎ曲げに関する立ち入り検査が行われていますが、これは指導を受けてきたにも関わらず誠実に受け止めて来なかった結果だと考えています。今後、皆さんには取扱説明書による遊技機の適正管理を遵守するようお願いします」と語った。

来賓には山口県警察本部生活安全部参事官兼生活安全企画課の石川一幸課長や、同警察本部生活安全企画課の中野民雄課長補佐、同警察本部生活安全企画課の井川正道係長が臨席。祝辞を行った石川課長は、県内の治安情勢について、振り込め詐欺といった特殊詐欺などの課題はあるものの、昨年の刑法犯認知件数は8695件となり、平成14年をピークに12年連続で減少していると報告した後、業界について、

「ぱちんこ業界では厳しい状況にある中、射幸性を抑えた遊技機の開発や、遊技料金の低価格化など、地域の皆さんが遊技機そのものを楽しめるような取り組みが行われています。一方で、のめり込みに起因するトラブルや置き引き被害、賞品の買い取り、遊技機の不正改造など様々な課題が山積している事も事実です。手軽に安心して遊べる業界になるよう、各団体が一致団結して今後も課題に取り組んで下さい」と語り、健全化を呼びかけた。

議長団を選出し、全4議案についての審議を開始。第2号議案「任期満了に伴う役員の改選について」では、10期20年の間、理事長職を務めた梁川理事長の退任に伴い、新たな理事長として金栄作氏を選出し、全会一致で承認可決した。

総会終了後は、同警察本部生活安全部の福原利夫部長ら数名を来賓に迎え祝賀会を開始。冒頭、壇上へと上がった金新理事長は、

「業界にはのめり込みや、子どもの車内放置問題などがあり、国民から向けられる視線や求められるものは、大変厳しいものとなってきています。それを反映するかのように遊技人口も年々減少しており、我々は自らの手で山積した多くの問題を克服していかなければなりません。今後は一度基本に戻り、組合員の皆さんと力を合わせて諸問題を解決し、遊技業界が再び身近な大衆娯楽として県民の皆様に受け入れられる存在になれるよう、全力を尽くして行きたいと思います」と挨拶した。毎年恒例となっている祝賀会での寄付金贈呈式においては、金新理事長より5団体に対して計220万円の寄付金が贈られ、それに対して5団体の代表者それぞれから感謝状が手渡された。

梁川前理事長

福原部長

石川課長

【新役員】（敬称略）
理事長　金　栄作
副理事長　南　政徳
〃　木村大作
〃　新井昌成
専務理事　谷重政生